

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：14202

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02010

研究課題名（和文）現代中国における地域主義と民族主義：地方行政区画間の競合関係の分析から

研究課題名（英文）Regionalism and Nationalism in Contemporary China: Analysis of Competitive Relationships between Local Administrative Divisions

研究代表者

兼重 努（KANESHIGE, Tsutomu）

滋賀医科大学・医学部・教授

研究者番号：80378439

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：トン族が多く居住する中国貴州省の黎平県、従江県、広西チワン族自治区の三江県などを訪れ、トン族大歌に関する文献・映像資料の収集を行った。その結果、以下の事がわかった。

（1）2009年にトン族大歌がユネスコ無形文化遺産に登録された後においても、各県は自県のトン族大歌を宣伝する映像を作成したり、書籍・定期刊行物を発行したりして、トン族大歌を自県の文化資源として対外的アピールを続けている。（2）中でも黎平県にその傾向が特に強く現れている。（3）トン族大歌を地域の誇りとして強調しようとする地域主義的な言説と比べて、それをトン族全体の誇りとして強調しようとする民族主義的な言説はあまり目立たない。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で行った地方行政区画間の「横の関係」の分析によって、政治的境界と民族集団の関係性に関する研究の対象を、従来の国境地域から非国境地域（中国全土）に拡大し、政治的境界と民族集団の関係性の研究に新たな領域を開拓することが可能となった。従来の「縦の関係」の分析では捉えきれなかった、現代中国における地方行政区画を単位とした少数民族の地域分化の実態とその影響をより鮮明に描きだすことが可能となり、中国少数民族の民族集団内部における競合関係の一端を詳細に明らかにすることができた。本研究は、中国以外の多民族国家における政治的境界と民族集団の関係性の研究への適用も期待できるという点で汎用性も有する。

研究成果の概要（英文）：I visited Liping County, Congjiang County in Guizhou Province, and Sanjiang County in Guangxi Zhuang Autonomous Region etc., China, where many Dong people live, and collected literary and video materials related to Grand song of the Dong ethnic group.

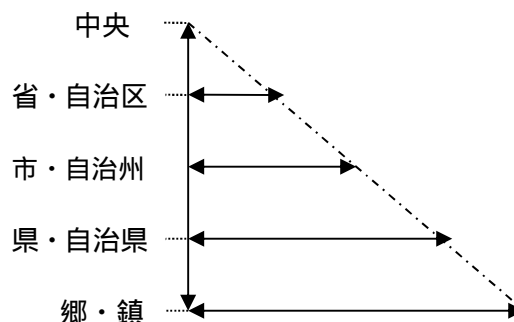
As a result, the following things were found. (1) Even after Grand song of the Dong ethnic group was registered as a UNESCO Intangible Cultural Heritage in 2009, each county has continued to create videos, publish books and periodicals promoting Grand song of the Dong ethnic group in its own county, and to appeal it to the outside world as an outstanding local cultural resource of their own county. (2) This tendency is particularly strong in Liping County. (3) Compared with the regionalist discourse that emphasizes Grand song of the Dong ethnic group as the pride of the region, the nationalistic discourse that emphasizes it as the pride of the entire Dong people is less conspicuous.

研究分野：文化人類学

キーワード：地域主義 民族主義 横の関係 縦の関係 競合関係 地方行政区画 トン族大歌 現代中国

1. 研究開始当初の背景

中華人民共和国は漢民族と 55 の少数民族を擁する多民族国家であり、省・自治区を地方行政区画の頂点とする縦割りの行政システムをとる。現代中国における少数民族研究においては、ある民族集団(村落社会に在住)と国家(中央)間のヒエラルキカルな相互関係(「縦の関係」と呼ぶ。右図の縦の矢印)に関心が寄せられていた(たとえば[鈴木正崇 1993 年「創られた民族 中国の少数民族と国家形成」、飯島茂編著『せめぎあう『民族』と国家 人類学の視座から』、アカデミア出版、211-238 頁])。



現代中国ではひとつの民族が複数の省・自治区に跨って居住する事例は多い(下表)にもかかわらず、「横の関係」(同レベルの地方行政区画間の相互関係、図の横の矢印)の研究は極めて少ない。そこで、兼重は 3 つの省と 10 以上の県に跨って居住するトン族(侗族)(人口 296 万人)を対象に、文化財・観光資源として注目されている建築文化を対象に「横の関係」の初歩的分析を試み、

トン族には同一民族としての一体感を強調する民族アイデンティティのほか、所属する地方行政区画の同一性を強調する地域アイデンティティも併存し、貴州のトン族、広西のトン族といった、複合的なアイデンティティが生じていること、

その背景に省レベル同士、県レベル同士の地方行政区画間の競合関係が存在することを指摘した[兼重努 1998 「エスニック・シンボルの創成 - 西南中国の少数民族トン族の事例から - 」、『東南アジア研究』、35 巻 4 号、132-152 頁]。

| 民族名   | 居住する省・自治区            |
|-------|----------------------|
| チベット族 | チベット自治区、青海、四川、甘肅、雲南  |
| ミャオ族  | 貴州、四川、重慶、雲南、湖南、広西、湖北 |
| ヤオ族   | 広西、広東、湖南、貴州          |
| 土家族   | 湖南、湖北、重慶、貴州          |
| イ族    | 雲南、四川、貴州             |
| トン族   | 貴州、湖南、広西             |
| チワン族  | 広西、雲南、貴州             |

一方、チワン族の事例を研究した米国の政治学者 Kaup は、雲南側のチワン族と広西側のチワン族のエリートの間では同一民族としての一体感よりも、「広西」のチワン族と「雲南」のチワン族というように、所属地域の差異を互いに強調し合うことを指摘し、それを民族主義と地域主義との対立としてとらえた[Kaup, Katherine Palmer, 2002 Regionalism versus Ethnical Nationalism in the People's Republic of China, *The China Quarterly* Vol. 172, pp.863-888]。

兼重はさらに、貴州省と広西省の役人たちの間に、トン族文化への国家からのお墨付獲得をめぐる競合関係が 1950 年代から存在したことをトン族の演劇の事例から指摘した[兼重努 2014 「文化資源としての民間文芸 トン族の演劇『秦娘梅』の事例から」、塚田誠之・武内房司編『中国の民族文化資源 南部地域の分析から』風響社、331-400 頁]。また、近年両省の間にトン族大歌のユネスコ無形文化遺産への登録を巡る、役人間の激しい競合関係がみられ、同じトン族大歌を共有しながらも、2009 年に貴州側は世界級の遺産リストへ登録され、広西側は国家級の遺産に留まったことを指摘した[兼重努 2016 「無形文化遺産登録をめぐるせめぎあうトン族大歌の事例から」、河合洋尚・飯田卓編『中国地域の文化遺産 人類学の視点から』(国立民族学博物館調査報告 136)、21-50 頁]。

トン族大歌のユネスコ無形文化遺産への登録をめぐるのは地域主義的な動きが民族主義的な動きを凌駕していることが示されたものの、分析対象は省(広西)と省(貴州)の間の競合関係が主体であった。今後は トン族大歌のユネスコ無形文化遺産への登録成功(2009 年)後の状況を新たに対象に加え、同じ省内(貴州省内)の県と県との間の競合関係についてもより詳細に明らかにしていく必要がある。

また、これまでの研究ではエリート層が発している言説の分析が主体であり、トン族大歌を伝承する人々が住む村々の現場に、エリート層が発する言説がどのように流入しているのかについての検討は不十分であった。

2. 研究の目的

現代中国では地方行政区画ごとの文化やアイデンティティを強調する地域主義が存在する。多民族国家であるがゆえ、民族ごとの文化やアイデンティティを強調する民族主義も存立しうる。現代中国では、ひとつの民族集団が複数の地方行政区画に跨って分布するケース

が多い。ではその場合、地域主義と民族主義のどちらが優勢なのか？本研究の目的は、3つの省と10以上の県に跨って住むトン族の事例をもとに、この問いに答えることである。具体的には(1)トン族大歌(アカペラ音楽)をめぐって2省4県(貴州省の黎平県、從江県、榕江県、広西壮族自治区の三江県)が繰り出す地域主義的言説や政策について具体的に明らかにし、(2)トン族大歌を伝承している村々にそうした言説がどのように流入しているのかについても明らかにする。

### 3. 研究の方法

(1)無形文化遺産となったトン族大歌の観光利用などをめぐって、競合関係が最も顕著である2省4県を対象にトン族大歌に関する文献・映像資料の収集を行い、各県が発する言説や政策を網羅的に把握する。

(2)トン族大歌を伝承している村をできるだけ多く訪問して現地の状況を見るとともに、各県が開催するトン族大歌関連のイベントにトン族大歌を伝承する農村に住むトン族の人々がどのようにかかわっているかについても把握する。

### 4. 研究成果

上記(1)について、無形文化遺産となったトン族大歌の観光利用をめぐって、2省4県がそれぞれ発してきた/いる言説および関連する諸政策についての文献・映像資料を収集した(コロナ禍の影響を受け榕江県への訪問は果たせなかった)。

2009年にトン族大歌がユネスコ世界無形文化遺産に登録される前から、各県はトン族大歌を自県の誇るべき地域文化資源と位置付け、自県のトン族大歌を宣伝する映像を作成したり、書籍を刊行したりする事により、対外的なアピールを開始しており、登録後においても地方行政区画間の競合という文脈の中で、地域主義的な言説が発せられ続けている。

例えば從江県の場合、『從江 養心慧地民族原郷』(從江県委員会・從江県人民政府共編、発行年不詳)という書籍を刊行し、その冒頭部分では、「人類非物質文化遺産 侗族大歌」「小黄侗族大歌为国争光 温家宝總理高度贊揚」(小黄トン族大歌は国の栄光 温家宝總理が高く評価)という見出しで、2007年に温家宝首相が日本を訪問した際に從江県小黄村のトン族大歌隊を随行させたことが写真入りで大きく紹介されている。その写真のキャプションは「温家宝總理親切接見小黄九姐妹」(温家宝總理が小黄の九名の女の子と心を込めて接見)となっており、温家宝總理が日本に随行した小黄のトン族大歌の歌手の少女達と親しく接見する様子が紹介されている。

また『從江侗族大歌選集』(梁維安搜集整理、中国文聯出版社、2015年刊)という書籍の序文において、梁維安(從江県出身のトン族)は、從江県の小黄が国务院文化部から貴州省の中で唯一「民族民間芸術之郷(侗族芸術)」に命名された(2011年)ことで從江県人の心が奮い立ったとの旨、記している。

このように、從江県は小黄のトン族大歌を強調することで、他県のトン族大歌との差異化を図ろうとしている。

4つの県の中で、貴州省黎平県が発する言説はその量においてその他の県を凌駕している。

黎平県では、トン族大歌がユネスコ世界遺産に登録された直後の2009年12月に、黎平県文学芸術界聯合会が『侗族大歌』というタイトルの定期刊行物を創刊し、2020年の時点でも刊行が続いている。また黎平県文体広電局は『侗族大歌』(中国文史出版社、2014年刊)や『侗族大歌記憶』(黎平県非物質文化保護中心等と共編、貴州民族出版社、2018年刊)などの書籍を公開出版している。また、黎平県委宣伝部が『大歌黎平紅色トン郷』(発行年不詳)という黎平県のトン族大歌の宣伝を主体としたDVDや『トン族大歌世界遺産地 黎平侗郷』(刊行年不詳)というトン族大歌世界遺産の地として黎平県をアピールする冊子を発行している。この冊子の冒頭に「黎平県侗族大歌少年合唱団参加第四届世界合唱比賽、并獲金獎」(黎平県のトン族大歌少年合唱団が第4回世界合唱コンクールに参加し、金獎を獲得)「由貴州省文化庁、黎平県人民政府聯合申報、侗族大歌於2009年9月被列為世界非物質文化遺産」(貴州省文化庁、黎平県人民政府が聯合して申請し、トン族大歌は2009年9月に世界無形文化遺産となった)という文言が掲載されている。こうした文言は、黎平県のトン族大歌の優越性を強調し、他県のトン族大歌と差異化を図ろうとする地域主義的な言説の一例と解釈できるだろう。

トン族大歌を伝承している村をもつ県においては、自県のトン族大歌を他県のそれよりも優れた文化資源として強調し、他県との差異化を図ろうとする地域主義的な言説が優勢であり、それをトン族という民族全体の文化資源として強調しようとする民族主義的な言説はあまり多くはみられない。

上記(2)については、トン族大歌を伝承している村々にそうした言説がどのように流入しているのかについては、(新型コロナ禍の影響により、途中から現地への渡航ができなくな

ってしまったため、当初の訪問目標は達成できなかったが、地方新聞の報道記事なども参照することにより、)以下の二点が明らかになった。

トン族大歌を自県の文化資源としてアピールするために、従江県はトン族大歌がユネスコの世界遺産に登録される以前から「従江県原生态侗族大歌節」という観光イベントを小黄村などで行っている。第1回「従江県原生态侗族大歌節」(2003年)の際には、(ギネスブックへの登録申請も視野に入れ)1,212人が同時に侗族大歌を合唱するイベントを小黄村で開催した。観光イベントとしての「従江県原生态侗族大歌節」は2003年以降毎年(コロナ禍による一時的な中断を除き)11月28日に開催されている。

一方、黎平県では侗族大歌を世界のブランドにするために、黎平県政府が北京の企業と契約し巨費を投じて「侗族大歌实景展演」という観光客向けのエンターテイメントショーを立ち上げようと、ユネスコの世界無形遺産の登録成功前の時点から準備を進め、2015年より上演を開始した。

トン族大歌を伝承している村々の民衆は、省や県が推進する観光政策の流れの中で、村を訪れる大勢の観光客の前でトン族大歌を歌ったり、省や県が主催する観光イベントに歌手として参加したりする機会が増えている。そのような機会に、(県政府等が発する地域主義的な言説を含めて)トン族大歌にかかわる様々な外部からの言説が村人たちの耳目に届いている可能性は極めて高い。

従江県が毎年開催している「従江県原生态侗族大歌節」の方には、従江県内の多くの村々のトン族が歌手として参加している。黎平県の「侗族大歌实景展演」(毎日上演)にトン族大歌を伝承している村の人々がどのように参与しているかについては、現時点では情報が得られていない。

#### 参照した地方新聞の記事

- 「千人斉唱 侗族大歌 従江已申報吉尼斯紀錄」『貴州都市報』2003.12.04 付
- 「黎平引資2億元打造 侗族大歌大型实景表演」『黔東南日報』2007.12.29 付
- 「黎平实景展演侗族大歌」『貴州日報』2015.03.05 付

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

|                                       |                   |
|---------------------------------------|-------------------|
| 1. 著者名<br>兼重努                         | 4. 巻<br>121号      |
| 2. 論文標題<br>命・風水・積徳                    | 5. 発行年<br>2021年   |
| 3. 雑誌名<br>樹滴                          | 6. 最初と最後の頁<br>2-2 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし         | 査読の有無<br>無        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>-         |

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

|                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>兼重努                    |
| 2. 発表標題<br>自文化表象の虚実－西南中国トン族の事例から－ |
| 3. 学会等名<br>日本文化人類学会               |
| 4. 発表年<br>2019年                   |

|                                  |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>兼重努                   |
| 2. 発表標題<br>自民族の歴史を書く－中国・トン族の事例から |
| 3. 学会等名<br>日本文化人類学会              |
| 4. 発表年<br>2018年                  |

|                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>兼重努                       |
| 2. 発表標題<br>文化資源と民族統合 中国の少数民族トン族の事例から |
| 3. 学会等名<br>日本文化人類学会                  |
| 4. 発表年<br>2017年                      |

〔図書〕 計3件

|                                  |                 |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>長谷川清・河合洋尚編             | 4. 発行年<br>2019年 |
| 2. 出版社<br>風響社                    | 5. 総ページ数<br>464 |
| 3. 書名<br>資源化される「歴史」－中国南部諸民族の分析から |                 |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>飯田卓、岩崎まさみ、菅豊、兼重努、俵木悟、川瀬慈、笹原亮二、高倉健一、才津祐美子、阿部朋恒、長谷川清、清水拓野、日高真吾 | 4. 発行年<br>2017年 |
| 2. 出版社<br>臨川書店   | 5. 総ページ数<br>398 |
| 3. 書名<br>文化遺産と生きる  |                 |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>松尾恒一、周星、田村和彦、兼重努、林承緯、徐かん麗、宗曉蓮、賈静波、王霄冰、小熊誠、張玉玲、胡艶紅、王晓葵、中村貴、島村恭則、及川祥平、西村真志葉 | 4. 発行年<br>2017年 |
| 2. 出版社<br>勉誠出版  | 5. 総ページ数<br>269 |
| 3. 書名<br>東アジア世界の民俗 変容する社会・生活・文化   |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|